



和氣清磨
一代記

本朝錦繡談圖會

四

^13
3941
4



門 へ13
號 3941
卷 4

本朝錦綉談圖會卷四

浴

東離亭主人補編

大正十年八月廿九日
本大學出版部贈



二僕精勤語旧恩

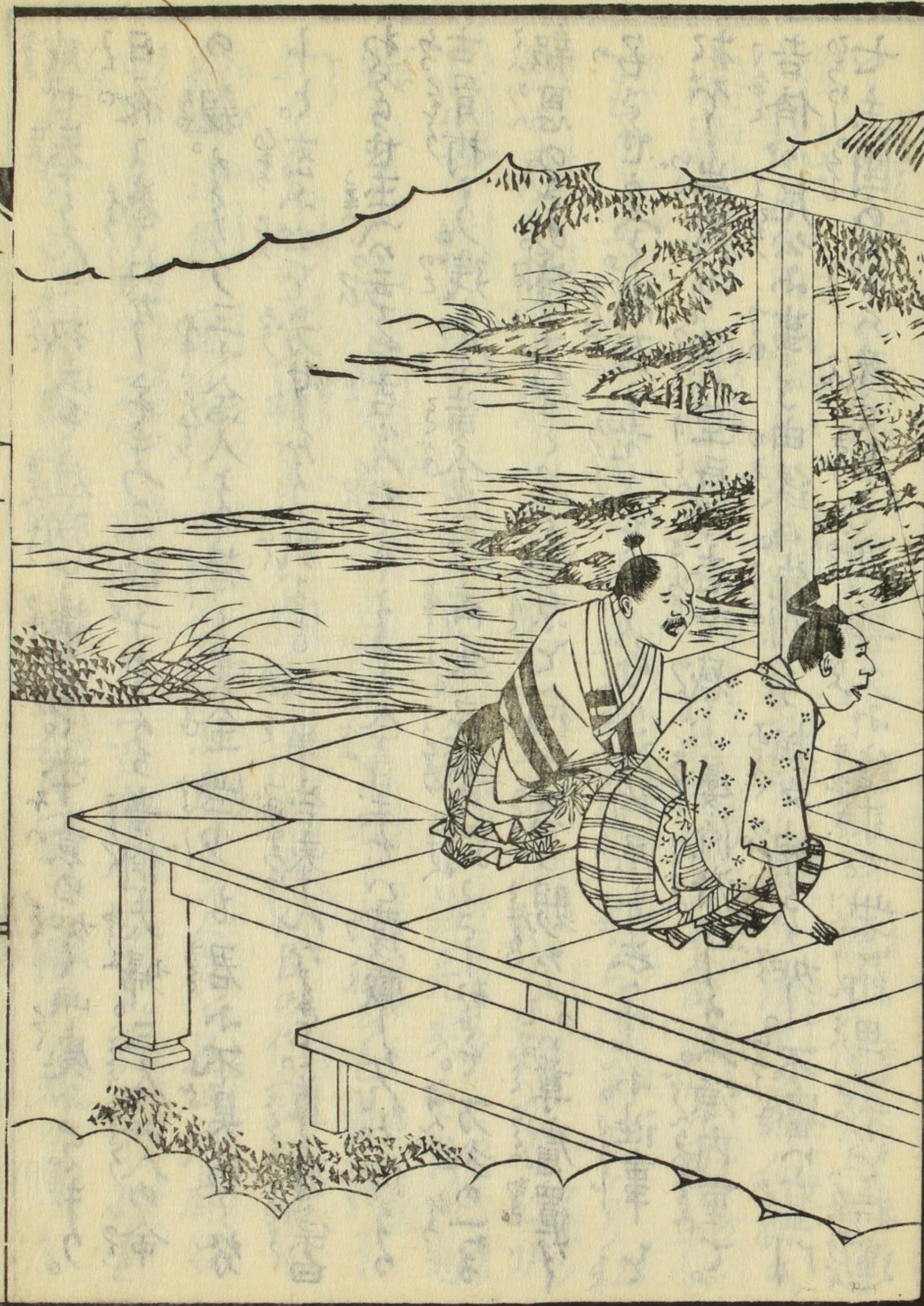
清丸が真言の回奏より道鏡が憤怒甚く廣虫尼をと還
俗せぬ。狭虫女と果芳て備前の国小流罪せしむ。これ追
遣の官人怪しの竹真ふら垂せ。最後と嚴しく警衛し浪花
より船出の日と淫て備前最の国小着岸し。聽て官人等帰洛す。この
罪の件々と伸く法均尼と逸与し。聽て官人等帰洛す。この
とき官人の奴僕源内と二人者遠卒小發病し。枕と擧る
夏社とす。あまふよりて国人と語合己が代勤し。都小登せ

聊^{ちやう}物^{もの}と高^{たか}身^みなりしが、過^すつる室^{むろ}字^じ六年^{ごくねん}の春^{はる}、遠^{とほ}小^こ保^ほ良^らの都^{みやこ}に
 遷^{うつ}る。都^{みやこ}の商^{あきか}賈^{あか}やま先^{まき}と。居^ゐ宅^{たく}をりり引^ひ移^{うつ}る。己^{おのれ}のりり貧^ひし
 き身^み。人^{ひと}並^{なら}み小^こ口^{くち}ん半^{はん}かき。旧^{ふる}都^{みやこ}ふ手^てと束^{たば}後^ご。坐^まして食^くへ山^{やま}も
 尽^{つく}す。況^{いは}んや渡^{わた}世^よの手^て便^{べん}なく。都^{みやこ}の住^{すま}居^ゐも做^しらば、大^{だい}安^{あん}寺^じの
 迎^{むか}へる。蠶^{ちり}居^ゐ。人^{ひと}の雇^やも手^て馴^なる。畠^{はたけ}ふ土^{つち}うひ田^{いり}ふ水^{みづ}歩^あび。
 些^ち少^{せう}の賃^{ちん}浅^{せん}とらぐ。種^{たね}々^々。夫^う婦^ふ稼^{かせ}も其^{その}日^ひと。露^{つゆ}の命^{いのち}も
 つまきふ。豈^あ計^{けい}らんや五^ご日^{にち}の雨^{あめ}なく。照^あつきさる。天^{あま}旱^{かん}。魁^せ田^{でん}畠^{はたけ}
 の雉^{けい}で緑^{きよく}色^{いろ}なく。霜^{しも}の枯^か野^のふ。忽^{たち}ち米^{こめ}價^あ百^{ひゃく}浅^{せん}と。三^{さん}人^{にん}口^{ぐち}。
 富^ふ饒^{じょう}豪^{ごう}家^けの人^{ひと}も。粥^{かゆ}よ夫^お食^くとい強^{きやう}く。況^{いは}て貧^{ひん}民^{みん}不^あ於^あとや。
 炊^た煙^{えん}たふ絶^たと。今^け日^{にち}や餓^が死^しせん。明^あ日^{にち}や倒^{たふ}とんと。覺^{かく}悟^ごはすれ
 ど悲^{かな}しみ。二^{ふた}人^{にん}の中^{なか}のこ歳^{とし}の嬰^{えい}子^こ。とらる。男^{おとこ}子^こと親^{おや}りらと。

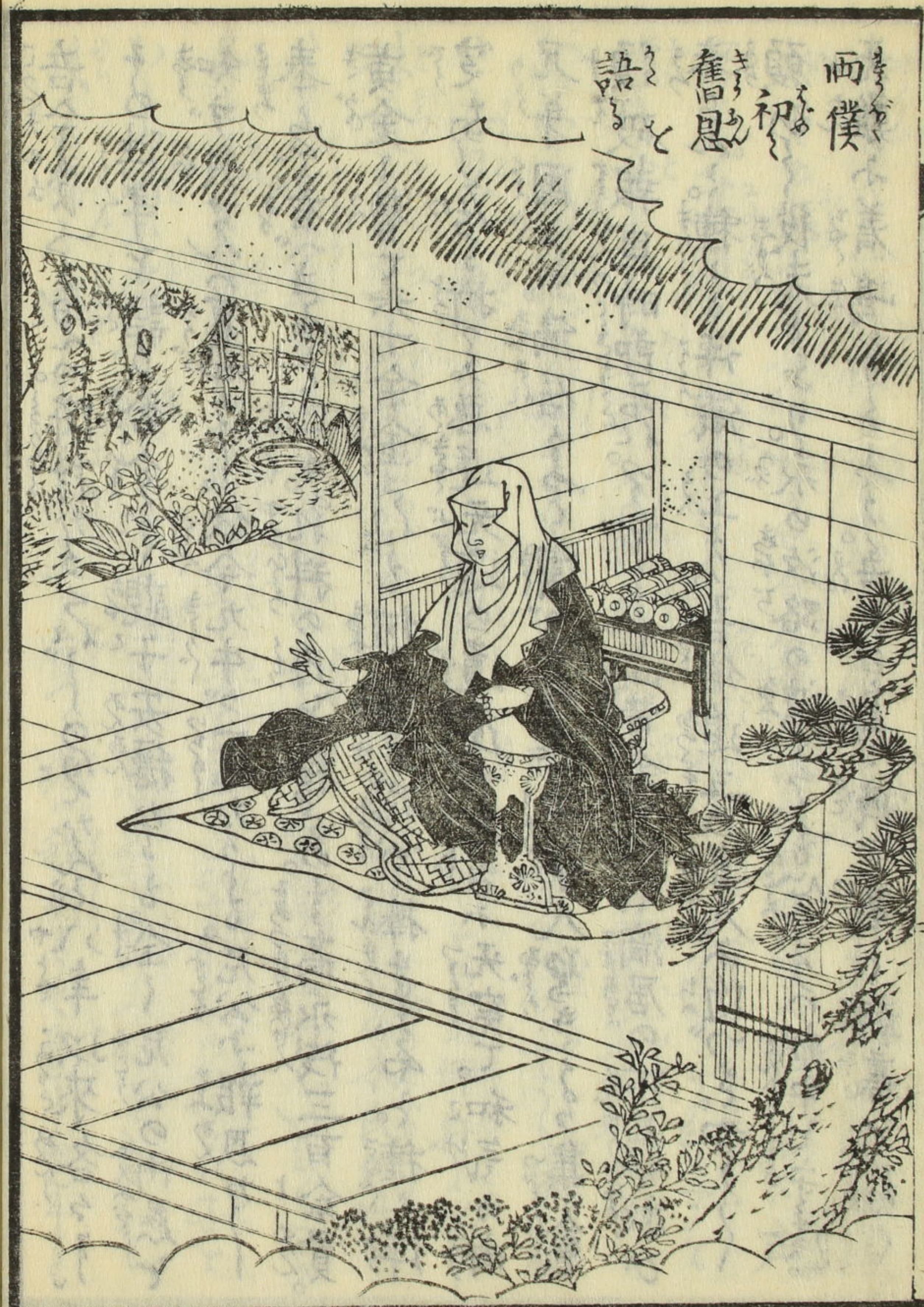
餓^が死^しかゝるんが悲^{かな}しみ。何^{なに}の親^{おや}も必^{かな}し。人^{ひと}ふ救^{すく}るも果^は報^{ほう}られ
 と。子^こを汗^{あせ}陌^{はく}ふ棄^するが多^{おほ}く。吾^{われ}侪^{たがひ}もあふ做^しらば。孩^{わが}次^{つぎ}の池^{いけ}は、
 棄^すて飲^{のみ}る親^{おや}の身^み。池^{いけ}の名^な々^々あふ。孩^{わが}もあふ。若^{わか}くも母^{はは}怒^{いか}れせん
 ずんなく。思^{おも}愛^{あい}ふ引^ひく。後^{あと}髪^{かみ}おひ振^ふきう。飲^{のみ}も。夜^よの目^めもあふと
 良^よ人^{にん}の輔^{すけ}やあふん。小^こ男^{おとこ}鹿^かの角^{つの}もあふと。人^{ひと}あふ。紅^{こう}の泪^{なみだ}を流^{なが}
 す。折^おり。村^{むら}長^{ちやう}喘^{あへ}ぎ突^つ來^き入^い。和^わ氣^き廣^{ひろ}虫^{むし}法^{ぽう}均^{ぐん}尼^に公^{こう}。廣^{ひろ}大^{だい}なる慈^{あはれ}
 悲^{かな}を以^もつ。去^この頃^{ころ}所^{ところ}々^々小^こ棄^する。幼^{わらわ}児^こを。とらる。拾^{ひろ}ひ上^あさる。い
 許^{もと}多^たの乳^{ちち}料^{りょう}をえ。乳^{ちち}ある困^こ民^{みん}。育^{そだ}て。幸^{さい}を許^{もと}等^{とう}も
 乳^{ちち}汁^{じゆ}あふ。一^{ひと}児^こを預^{あか}り奉^{たま}る。乳^{ちち}料^{りょう}りて夫^お婦^ふの飢^き渴^{かつ}も免^ま
 り。一^{ひと}切^きり。吾^{われ}子^こを棄^する。他^たの児^こを。育^{そだ}て。本^{ほん}意^いか。人^{ひと}
 此^{こゝ}頃^{ころ}得^える。乳^{ちち}料^{りょう}の銀^{ぎん}子^こ。将^{まさ}人^{にん}の児^こを育^{そだ}た。わが児^こも。か。人^{ひと}の

養育しけんを心裡の愛みかどぶとて送へばやと立派の武士れ。
 いまの姫小嬰見と懐くも有た者大切小養育せよ。乳汁持の庄
 官より其月々小拜受せよ。残る方かそ仰を家より子印子と
 懐き金もい。豈計らん哉猿沢の池ち也小棄く吾見をわ
 いふと胸強ぐど。如かりくと言んて恐る表る人の子と。暗着
 せ吾見と育つるハ全く法均尼の賜もの。その法師好し後
 殊更を見等成長なると。法尼の老子と。高木氏の姓と
 と。官中へ奉仕させんと。命令しと聞ごまふ。いとつ
 子と人々の告後。一村辺里より棄く。三千余人の親を子と
 か。暗く迷ふは。誰り法尼の恩恵と。棄るみ如く。あか
 後。密く叫ぶ。今何某が育つ見。我れとて棄る。何んか。

吾今養つる見の保村なるる。八年以來各々。その往年と語り合。今親子安穩なるも。全く尼公の由と
 知す。貞せん。冥加。仮令九牛が一毛なるも。尼公報恩。一
 奉らで有べき。と已々。乳料の内と積め。高永。幾三百余貫。
 黄金と替て六十余金。何と報て。尼公捧ま。種々評
 定。居る。拵。悪逆。无道の道。鏡。毒舌。无究。和氣の御
 兄弟。国々。偏居。聞。三千余人。集會。
 須破。報恩。時節。わ。此黄金。以。滴居。の不具。を救ひ
 奉ら。種々。評儀。の上。吾。追立。の官人。小。近。づ。や。く
 願ひ。役夫。と。永。の。汝。路。の。波。ま。心。を。船。中。と。守。護。
 无難。小。着。嶋。なり。吾。の。島。残。居。朝。暮。と。易。く



西僕
初
舊恩
語



成せ奉らん。叔あを患病と稱えり。本意の如く此處ふらまひ。
 日夜に奉仕かりまひ。我子なり。吾侪夫婦三人四人の命
 の親。わらうり三十余人より捧る黄金。些少も君不具あは
 トと。密ふ心と方せかり。夙も此事告奉んかまひ。尊慮御言
 わらせ玉へ云や吉ん云やよと。今日まで。復蔵かれ。傍ら
 古骨折より。残ま黄金三十兩余。尼公の前こころ。万公の一
 報恩のため。捧まるとも。原と問が君が賜かれ。尊慮置か
 召させると。満面小老実とあはせ。法均尼も志す。不性事と
 ねがし出され。且へ里民の志と感。屢流涕かり。源内重て。
 吾侪が尼公事。由縁へ先刻より粗々伸ぶ。如し不審へ右門
 七主國の人と。豫て夏と。斯朝夕不結末て。柴薪果菜と持運

つと。はへ。つと。由縁め。願く。右馬
 七の法尼ふ向ひ。法尼も某と云ふ。実ら法尼が巾着の
 清麻呂朝臣と同僚と。早川右衛門尉が。果なる。思ひ
 一む。宝字八年秋九月。惠美押傍及逆の折ら。後榮と。私
 敵小惑ひ。招き。應じ。徒堂。皇居ふ引。天罰。江州
 高第の戦ふ。思も。清麻呂朝臣。滅亡の鋒先。尖も。終る。物
 敗と。是は。彼。或。討。と。生捕ら。我も。忽。搦。都。引
 折ら。他。手。捕。り。清麻呂朝臣の。仁。慈。あ。つ。く。
 檢非違使の。廳。番。ら。終。死。刑。ふ。處。ら。人。き。と。尼公。清麻呂
 申。死。刑。一。等。と。免。ら。と。三。百。余。人。と。流。罪。と。多。と
 某。の。備。前。の。國。小。捕。ら。適。命。と。雖。も。天。の。憎。と

天寿のよひ小狭くもや。眠ふ如く世を辞せしむ。母子の終き大方なす。然も伴ふ国司の命と家より夏ふまは村中より終き葬送といふも過分の追善と執行もせしむ。全く孝女の余慶し。斯く葬事済む後の兼て富子が容色とらひ。孝貞の答言と一國に溢るるが。老父の其行状とをさし。若夫の容貌小良も。嫁とさん養女と成んと。紹々媒人と以て。清望との許多す。と久も。富女いつる望志うりたり。曾不通あれを諾ん。唯清麻呂と再生の。恩人ありと肝ふ紹。母子日々交代。御鼓ふとあましく怨ふ。裁縫洗濯の女業を知りたる富女この頃何とも。日々小顔色と失ひ。夜々小形姿と衰へ。飲食とへ進めか終ふ。病林小枕と高し。老母と小驚と。村医と迎へ

種々配剤と勸しと。更ふ其効驗も奏さん。老母らうらうらと痛ゆ。自ら清麻呂君が鼓も問ず。清麻呂はあまを志と。或とき稻積小。母子の久く訪らるを問て。ちめて富子の病を安そい。不便の夏なり。たや配剤ふ急うなり。夙く全快もなせらる。と紹ふ。宣へ。稻積の搦手し。希ふ疾と愈す。系を渠よりへ。清麻呂微笑ひ。異あると。と者う。我つと。医の道を得ん。如何に病疾を愈さんや。稻積か。後々。否々渠の病根を断ん事。君が療ふ。草根本皮の功あ。其所以。渠つら。因るあ。怪物小魅せ。夜々異ある。幻々來る。程々渠を責る。希ふ。君が側小。町々あ。赫々。稜威と怖る。魍魎も迫る。老母が

扱なく其を捨口説と君が尊慮と計か後。今日まで黙止
 しが。君が仁愛とて。いまだ若きと助命てらる。廣大の憐愍ふん。
 清麻呂眉を嚙め。其の不審さてなり。凡魍魅へ滅ある者小
 迫寄らむ。渠の之親孝の節婦。いづり妖術の犯すべき是
 と必あらう向ふ處ならん。ちう一結あり。一男最愛の妻と
 早世。悲歎やう方ふて。終小病牀に臥て。飲食と不快を言。
 ちう小夜闌人。禿まかよんで。病牀小物語をあり。人子う密に伺
 ふ。病者の外ふ人ふ。さしども夜に答活止る事なく。親友とて
 こまを問うて答へず。屢尋ふ黙止がう。此妻夜に來て枕席
 と慰むよう言ふ。親族終るき南淺世に於る事聞あう。病者の
 疲労調へう。所謂死靈の魅にうん。頂大徳の関え

ちう某禪師かかろ。禪師憐れ病牀小く。席上より合ふ
 将基盤なる。駒と二ツ三ツ白紙にて敷重る包こ固く封とく。
 守護の文字を墨がらふ。紀し。病牀の天井小く。今日宵
 此妻來る。是に至る尊き神存かると。うづと教て。昨日
 聖日禪師きうて。昨夜の形容とす。病者答て仰のう。
 此妻示す。渠笑ひて。持基の駒と。何の尊と事うあつと。
 つつ由と。又人禪師より點合き。左もあが。つひつて。更小
 手洗口漱。携へ來る。文庫より一封の神符ととり出し。
 病者。真に敬恭し。床の上から卓に載おと。是に妖魔を
 除く。至尊き神符。必凡倍の手と勿触む。今宵出霊する。次
 昨夜と。同く。聖日禪師と。又前夜の次

ころ。維いといちちて清麻呂きよまたろ。懐なつきき分わく身みと震ふるたた息いきももころん
 き形容けいよう小。清きよ麻また呂ろの富とみ女むすめを取とりり案内あんないせせて宣のたまふ。稻積いなづみ
 心得こころえ内うち入いるら燈あかりももなく真ま黒くろ暗くら。稻積いなづみのの声こゑととかかけ。老ろう婆わののつつくくどど。
 清きよ廣ひろ呂ろ君きみのの來きませせし。呼よぶぶ維いがが答こたへへたたし。是こゝろ々々不ふ審しんとと息いき
 賞あやええのの電でん殿でんののええとと極ごくささらら。ややりり附つ木ぎとと索さく得とくて。埋う火かとと灯あかりとと
 点てんつつふふ是こゝろ処ところ彼あつち方かたのの物ものおお覆おほしてしてふふ狼わん藉せきのの形かたち容ようああつつ。
 老ろう婆わららづづもも急いそ度どふふとと隔へだててのの敷しき居ゐりり倒たふれれ伏ふす。稻積いなづみへへ走はし
 よよううかかるる騒さわぎぎもも猶なほああららどど。ううらら伏ふすすをを純ますす。背せとと叩たたきき
 揺ゆ起おこすすふふ。豈いか計はかれれんん息いき絶たええりり。ああのの怪あやししみみとと忙あわせせららるる。清きよ丸まる
 女むすめとと懐なつきき内うちへへ入いりりやや。富とみ子こ。最も早はや恐おそろろくくてて勿なききととははららめめよよ
 慥たつかかししとと。曉あつつししるるをを病やつつとと。ととかからら人ひともも驚おどろろししやや。息いき又また息いきききれれ

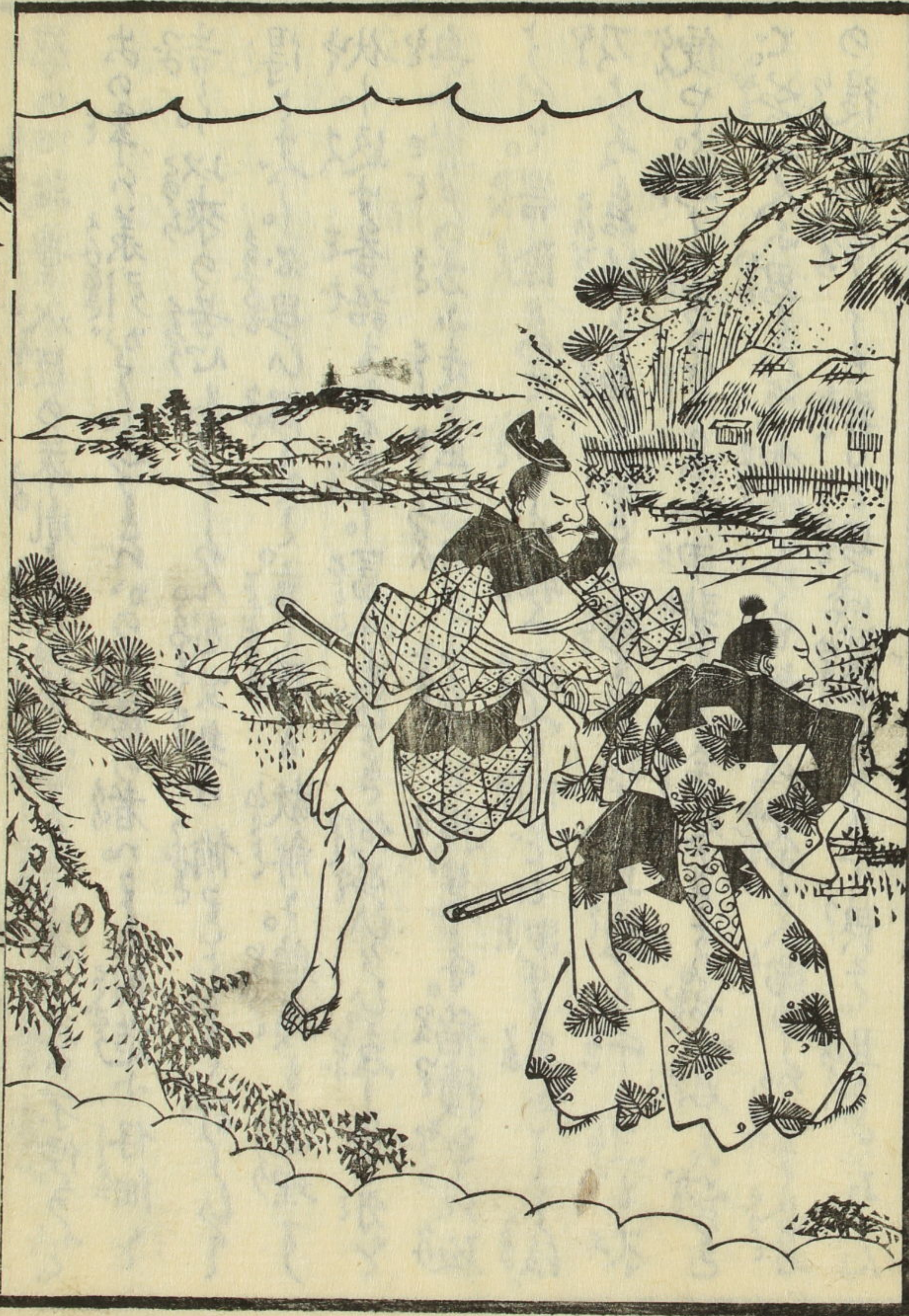
人事にんじととららるる。清きよ廣ひろ呂ろ君きみのの稻積いなづみふふ余あまはは水みづととりりよよままるる。口くちづづくく。
 富とみ子このの口くち吹ふきき入いりり。心こゝろ下くだとと極ごく下くだげげ耳みみ根ねのの口くちをを。富とみ子ことと呼よびよ活くわ
 るるふふ。漸ゆるくく自みづかししををかかいい。目めととああららるるととああららるる。別べつ人にんななららどど清きよ廣ひろ
 呂ろななららどど。活くわ然ぜんととああららるるきき身みとと耻はぢぢ。自みづかししもも得えずず俯ふ伏ふささららるる。老ろう婆わ
 稻積いなづみもも老ろう婆わふふ水みづ飲のみみせせ。ささららるるのの今いま抱かかりり目めととひひききぬぬ細こまくく。
 富とみ子こののつつくく娘むすめののつつくく尋たづねねめめるる。小こ稻積いなづみのの声こゑ高たかくく。そのその像この来きへへああらら
 ねねどどもも。富とみ子こがが疾あや病びやう不ふ便べんふふ思おもふふ。清きよ廣ひろ呂ろ君きみのの訪とん来きりりふふ門かどのの口くちをを
 曲ま者もののの出い会あひひとと甚こゝろくく懸かりりとと富とみ子こをを救すくひひ手てつつくくふふ抱かかりり。更さらにに
 案あんずずるる更さらなるる。皆みなもも今いま夜よのの此こゝ容ようののつつくくるる所ゆゑ以ゆてて甚こゝろくく焦ころろとと老ろう婆わ
 いいわわるる子このの血ち事じとときき半はんとと合あひひせせ伏ふ拜ばいすす。感あつ帆ふきき殿どのののややとと足あし下くだ
 とと兼ありりてて倍たりり加かのの无む頼らんんとと隣となりりなるる五ご郎らう太たととつつるる。溢あぎぎ者ものなりり

連夜きつりて吾目前も遠慮なき有りて無頼の仕為限り
 なく今夜も本つて種々多妻と責め娘小迫る。此上とて病勞を
 歩行難める富女と列を何処か連姓んとす。遣らばと多妻取
 ずらうと。ち蹴し助と謝らうが其後の支へ去来志らう去とて
 斯く折節和氣の殿れ来とまひし。金一巾佛の助とて迎も
 売渡つたの苦し。命活とる思ひもよじ。此上の便なき。孤独の富子
 をわがまみひ縁ての志願合あやう足下小更小取まる。今日とて
 包しつと。渠の故甚兵衛が胤わらば。我身のまご若き頃社奉のため
 都小のりり。路真人豊永君小仕し。不岳や夏の縁とたり。密
 小巾情と家と終小巾胤と嬢姪せう。世の人口とごもる金件
 多玉とつて。巾暇を主人玉とら。一まづ生国この大偶よろ。生産

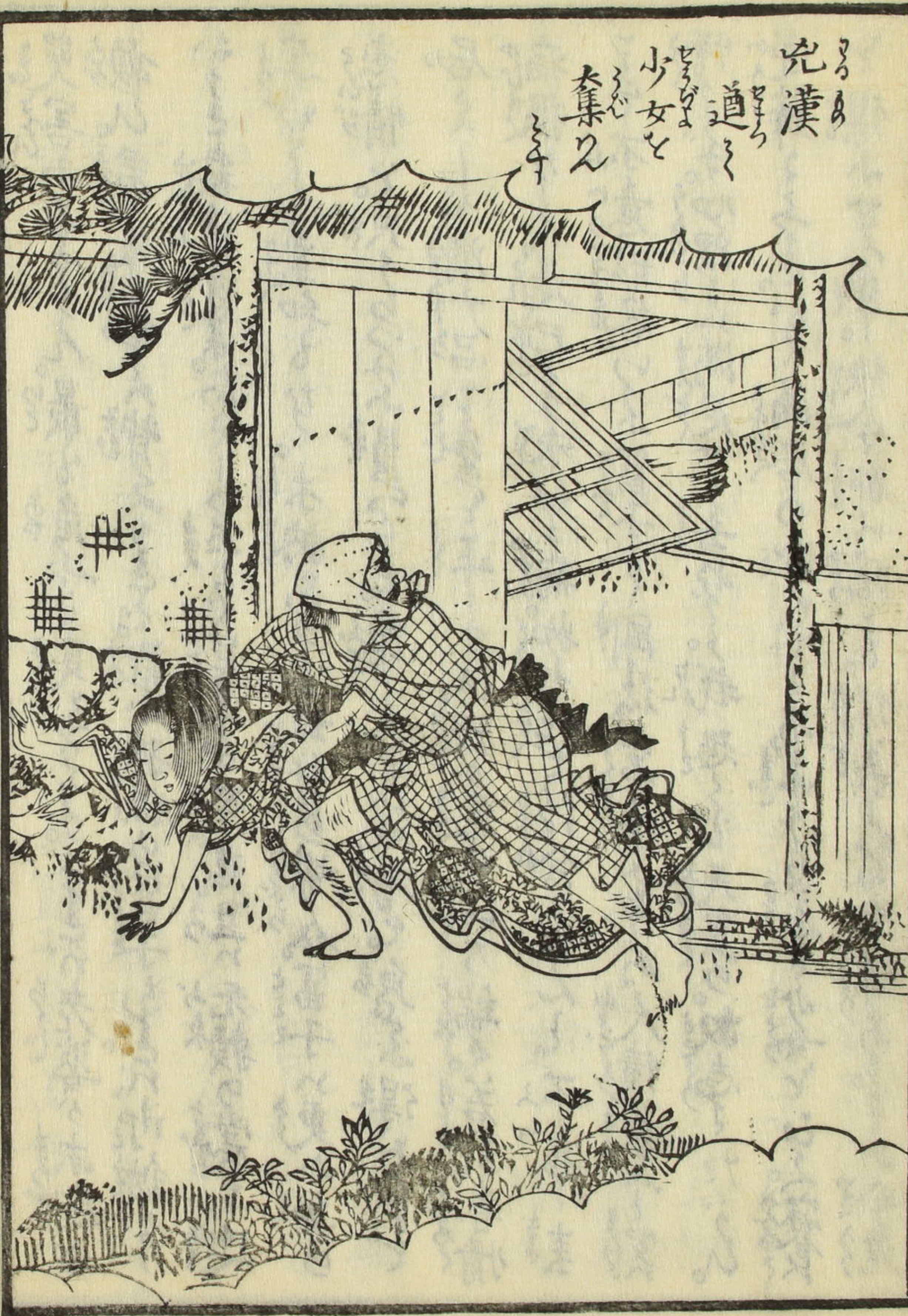
せんの彼富子。そのら人の御あう。嬰子つきて此家小再嫁。その志
 ちあけ渠の肌小かけ。守の内小ありなき。無下小賤しき胤う非ず。
 と。結うらふも老の力の息も絶。断絶間娘有九の一言と。此上の
 名残り息断ら。富子の母小取まう。空しき骸と押揺。前後も
 わげきとわげ。歎き沈め。清平呂も。子と思ひ親の仁愛小良落涙
 とまのひが。更小指つて小宣く。汝富子小物怪の。魅せしといひし。小
 達ふとの時宜とて。老妾の遺言といひ。かご。其意厚とて。仰と指
 積頓首君の尊疑陳ず。小辞は。ゆや此期小及びて。何と包ん
 小の言女君が仁慈。此際とあり。圖らうき。無涼の情とあり。朝
 暮小慕ひ奉り。え来君が潔白廉直とて。その力の残と恥て
 逆も及びぬ。猿猴が月恋とす。枕より。後より。よけ。魚の海浪。

めも思ひ伏沈み。終病となるのみならず。且而加之。敢刻小君。手
 手おまき。者へ隣邑なる。五郎太と。元頼の奴。富子を深く
 惣意し。夜々小あう。元体の意暮つ。否へ老婆と責め。うちお擲
 が。悲し。小。病苦。小。花。け。日。時。と。延。せ。ど。何。日。ま。で。も。便。垂。文。病。愈。え
 待。ら。な。き。と。焦。く。尾。簞。小。及。ん。と。す。と。や。狂。る。ぐ。云。道。う。ん。ど。これ。一
 層。の。病。苦。と。ま。日。々。小。疲。方。の。弥。ま。す。物。う。う。老。婆。已。小。六。の。次。子。と
 加。り。何。と。ぞ。殿。の。側。ら。く。かん。宮。つ。え。成。し。め。う。う。渠。が。毒。の。著。目。波。扇
 鶺鴒。その。入。流。石。小。元。頼。の。五。郎。太。も。殿。の。御。鼓。う。得。も。入。ら。だ。た。と。つ。つ
 身。へ。責。せ。ら。る。と。元。頼。の。と。め。と。害。せ。ら。る。と。も。生。先。あ。る。娘。が。命。助。け。と
 め。と。手。と。合。せ。凍。る。と。妻。屢。か。ん。ど。い。ん。せん。君。が。麻。索。と。ま。り。怪
 矣。と。い。偽。り。う。う。嗚。呼。君。今。宵。訪。わ。ん。だ。富。子。が。う。う。何。半。の

災害小あう。ん。最。も。危。う。と。妻。あ。う。う。う。と。ま。ま。が。老。婆。が。未。期。の
 願。ひ。君。が。尊。慮。う。ん。背。ぶ。と。ま。と。改。小。孤。独。の。富。子。も。ま。り。御。鼓。う
 かつ。と。裁。縫。女。業。あ。う。と。玉。を。富。子。が。本。意。且。元。頼。の。意。も。近
 寄。が。と。柔。和。も。な。く。木。訥。あ。う。う。妹。背。の。媒。父。富。子。へ。更。小。身。の
 意。情。と。只。う。ら。ひ。小。員。つ。ら。と。愧。し。と。も。増。と。身。小。得。あ。げ。む
 居。ら。う。が。清。大。呂。と。ま。と。正。し。め。い。汝。が。先。の。詞。々。端。々。若。引。春。情
 病。根。か。ん。是。已。う。求。む。病。物。小。花。と。結。念。と。せん。と。不。意。う。ま
 して。不。意。形。容。い。小。富。子。と。聞。伝。岩。木。と。あ。う。の。人。情。暮。れ。と。ま
 悔。う。う。心。理。う。満。足。せ。り。去。ぬ。う。我。恐。く。も。天。皇。の。教。志。と。た。う。い。
 逆。隣。と。ま。ま。か。く。蒲。居。の。身。が。う。う。小。未。う。ら。若。き。少。女。と。し。う。宿。食
 と。俱。ふ。せん。事。及。今。都。へ。痛。も。信。義。と。む。わ。て。慥。あり。と。う。小。老



兇漢
道
少女
集



憐むらん。富子も其意を愛憐のたまふ。さう下奴も其意を
深む情をうけりし。

雨舎茅屋會論妙

備前國藤原縣の和氣の弟彦王軍功ふりて賜ふ。世々此處
小居住ありし。清平呂高祖父佐波良曾祖父波岐豆
祖父宿奈父平麻呂四代の墳墓本御あり。石と疊。樹木
と積て。殊々深林とあり。最嚴重の廟所あり。清凡諸居
とあり。後々自々領民もあつた。空の樹木と伐採する
む。さう深林の跡へ失て殊更なるの洪水。石垣崩と
塔倒して。其處原よりさう谷あり。原來との迫り。水害ありて
山崩して谷を埋む。川溢れて田圃淵とあり。水利太りし。

ら。當國主常ふあをを患へし。和氣清平呂大隅諸居ら
ら。彼國の水利を考へ修補せし。再び洪水の患難
なき由とき。則大隅國造。諸客清平呂小此律を以て國の
水利順とせん。其の甚易きとあり。去れ。我諸居の身と以
て。私小他國せん。本意あり。但願ふ都小奏して官の免許
の上速に往向え。其の甚易きとあり。去れ。我諸居の身と以
右大弁百川卿へ急便を以て伺ふ。益々清平呂の潔白と
あつた。百川の事。國家の爲水利を修せん事。全く
君忠して。憚らざる。清平呂の命より。清平呂心理不致して。
わと幸ふ先祖の廟を詣ぐんと。其備專らあり。先富子子細

と演く。國造の節ふ預も並に。兩人の下僕あり。備前より迎の
 人数と前後小備へ。大隅とく。不日備前の國造と對面
 一。先地理とんじも。山川とゆ。修め則孫原縣より。
 和氣の朝所ふま。形りて。荒廢もせ。とんを。ひ
 物思ひとん。滴居の身かま。修度せん。憚あり。
 紅波と押へ。考妣及び先祖。身の甲斐あきを。致さ。
 若天運ふ合ひ。生涯ふ息免あ。ん。即日復古造營せん
 こと。心中ふ誓ひ。夫より日々。村里と見巡る。夜へ地因と
 り。水利と考へ。己の巧考成就。水屋と大海と落下り
 あり。海濱り。低と巡見せ。折。暴雨降出。車軸と
 流す。形容ふ。ま。凌ん。便なく。側。蠻人。家。有る。

い。せ。る。び。き。芦屋あり。少頃。彼所と里正。國の賓客入
 らせら。物。が。け。権柄小。駈。敢。せ。て。暗間
 と佐。人。と。情。ず。清。平。呂。の。軒。不。行。真。袖。の。雨。と。拂。う。
 香煙。馥郁。と。瀆。経。の。声。と。剛。なる。と。か。る。海。濱。り
 芦。舎。ふ。似。氣。な。と。珠。勝。の。動。静。哉。と。静。ふ。内。入。り。側
 小。平。身。り。奴。隸。と。一。養。馬。の。形。容。と。奥。下。り。し。と。知
 一。和。氣。の。清。平。呂。君。の。來。り。早。く。出。せ。り。と。叫。ぶ。女。の。答
 ふ。正。が。と。人。ぶ。な。と。元。れ。と。制。も。ふ。と。出。て。
 是。ち。小。流。も。清。平。呂。と。し。う。う。嗟。床。や。と。走。り。も。清
 平。呂。も。吃。と。目。と。め。り。と。別。人。な。ず。妙。法。均。居。な。り。互。に。愛。の
 心地。と。手。と。取。交。り。面。と。見。結。少。頃。言。葉。も。出。兼。の。流。涕

のつゝ大隅の國造より。早使到り。和氣清麻呂流刑赦命あ
 り。速く上浴あり。者。到時奉行せよ。免状と奉り。
 速小大隅の飯。日出度故帆し。僅く使命とのう。ふ
 清麻呂更。勅免書と押載。天地と拜。とて國造と商議
 せ。姉法均尼と大隅の伴。彼地より。饗を解んと。ふかく
 恩免。上の何と憚らん。免。角。小君。隨。意。と。由。ふ。清。廣。呂。致。び
 法均尼と量。古。廣。門。七。の。恩。免。か。た。島。守。の。身。か。ふ。ふ。と。法。均。尼。が
 家。器。調。度。を。保。ふ。猶。黃。金。と。添。て。礼。謝。の。あ。り。と。源。内。へ。召。具。し。
 法均尼と共に。當國造小服と。出。せ。奔。足。あ。ふ。不。國。造。も。流。刑。恩。免
 の。上。へ。原。の。侍。臣。の。上。國。益。を。計。し。ひ。礼。謝。と。て。種。々。奉。り。と
 とも。更。一。物。も。納。ら。ず。勅。下。恩。沢。と。國民。も。惠。ら。ん。事。と。と。て。召。具。

芳志と謝し。其品物と請ぎ。國造も強て争ま。す。則
 ち。と。國。民。も。領。と。へ。つ。る。人。民。清。廣。呂。君。と。國。造。と。の。恩。惠
 と。感。謝。せ。り。清。廣。呂。法。均。尼。諸。も。大。隅。小。飯。と。國。造。小。永。の
 慈。恩。と。礼。謝。し。富。子。と。法。均。尼。の。侍。女。と。財。人。と。ま。ら。の。家。賤
 調。度。と。村。民。の。男。女。も。と。と。と。一。施。し。親。小。一。別。し。稻。積。等
 兩。僕。と。召。具。し。迎。の。船。も。乘。移。せ。國。造。も。更。小。名。残。と。惜。み。
 村。民。老。幼。と。助。け。り。宛。も。父。母。も。別。と。と。と。袂。と。ま。り。あ。る。光。り
 諸。客。勅。免。僧。勅。勅。

却。説。都。へ。弓。削。道。鏡。大。志。と。い。ふ。中。臣。阿。曾。丸。と。い。ふ。偽。の
 神。勅。を。奏。せ。り。和。氣。清。廣。呂。が。精。忠。と。う。そ。の。女。謀。翻。語。せ
 と。怒。り。和。氣。所。并。と。邊。土。に。滴。せ。り。猶。更。小。女。計。を。免。ぐ。り。

繼卿の兩卿志を申す。天智天皇の皇子施基皇子の御子。白壁王と宝位小即奉る。人皇四十九代光仁天皇と仰ぐ奉る。處なり。元來聖德備る。君ふまませ。上下ためて安んず。仰ぐ。万歳を唱へる。年号を宝龜元年と改めし。朝政を聴く。奏事始ふ。坂上野田上表す。弓削道鏡を身氏。僧徒なる。君寵を誇り。法王の尊号を穢す。三公の上を去り。政を掌握す。我慢放逸の争動。余々。皇あはれ。是も。恐ぶ可ん。案方。恐ぶ。か。衆。拔で。奏。奉。帝。後。その奸悪を憎む。先帝の陵土。乾。刑戮。處せん。慄。死。刑。一。等。下。野。周。流。刑。某。師。の別當。号。道。鏡。が。弟。弓。削。清。人。と。土。佐。國。へ。流。し。す。

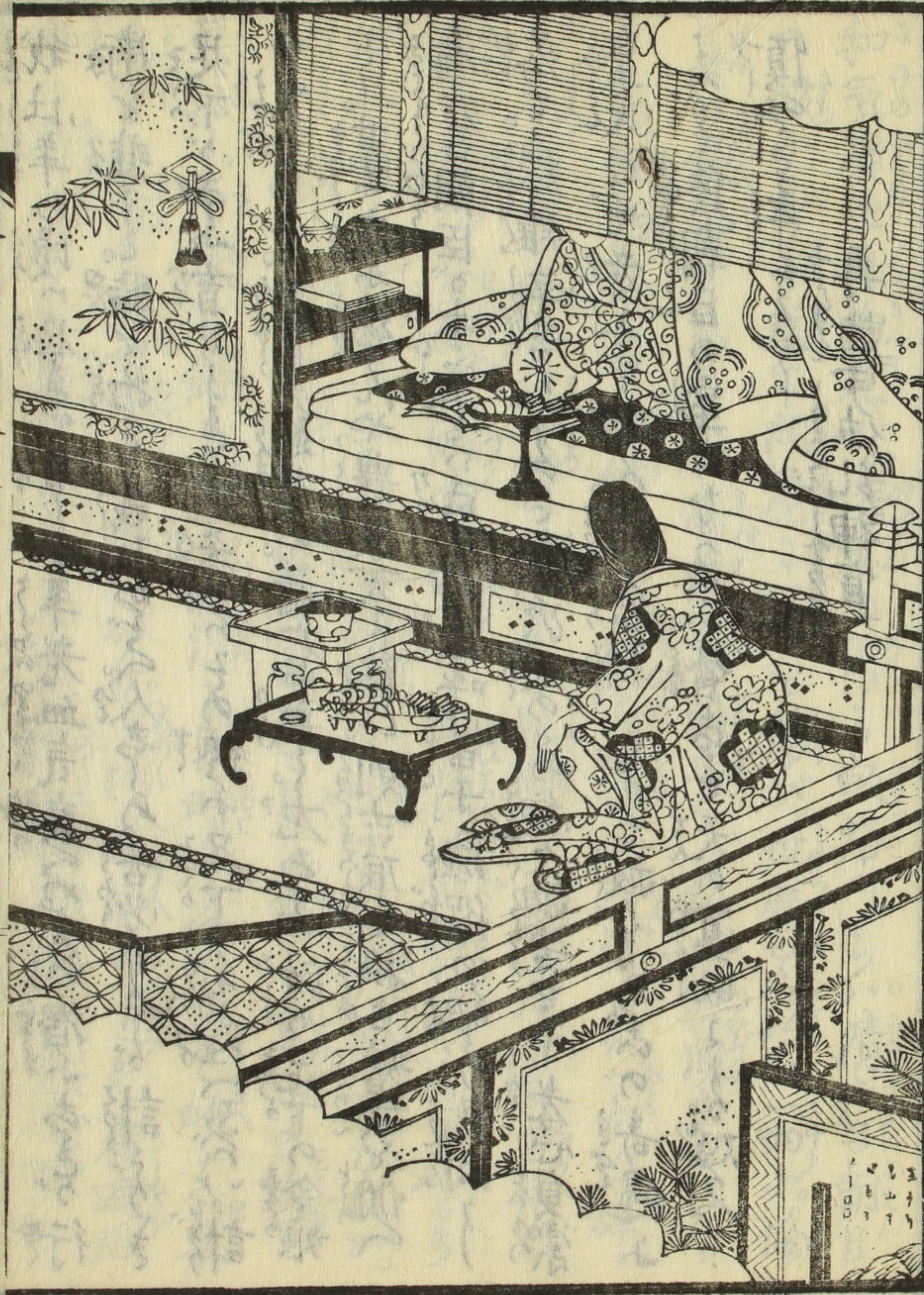
勅設あり。又和氣清左。精忠無二の良臣。実直の同奏と罪。遠。部。謫。居。せ。ん。ハ。幡。太。神。の。照。覽。も。賢。し。早。く。奸。弟。を。見。免。歸。浴。を。必。と。重。く。勅。設。す。万。民。中。を。傳。養。て。邪。正。賞。罰。と。正。を。感。佩。せ。る。去。程。小。道。鏡。を。先。帝。崩。じ。高。野。の。山。陵。に。葬。す。如何。奸。謀。あり。ん。後。の。側。小。別。後。と。建。し。る。百。夜。た。ふ。龍。を。後。と。守。護。を。表。す。猶。も。人。氣。を。量。る。終。る。法。王。の。位。を。輝。し。帝。位。を。傾。け。奉。ら。ん。尊。を。結。搆。と。做。す。處。ふ。尤。大。弁。正。四。位。上。佐。伯。宿。祢。今。毛。人。彈。正。尹。從。四。位。下。藤。原。朝。臣。楓。府。呂。の。兩。朝。臣。勅。を。奉。り。道。鏡。が。別。後。み。つ。る。子。道。鏡。い。斯。も。志。守。錦。繡。の。褥。の上。に。安。坐。し。侍。女。小。配。膳。を。せ。て。朝。飯。と。喫。す。る。處。へ。兩。朝。臣。囚。獄。司。の。官。

人々を卒し。突く入ると守り。道鏡を縛り引下し。詔あり奉ると呼ぶ。
 流石大膽の道鏡も思ひ寄れば忙然と。囚獄の官人声わくく
 不敬なる道鏡取て引伏せ頂と押へ腕と取て動さず。この時
 今テ毛人。詔旨と高うく不續了と云。彈正尹が指揮ふらう。有母の
 回答も及ぶとあせ。身も纏へる綾羅を剥とり。用兼あつらへる
 荒妙の衣服。布の黒漆の衣と着せ。身もあやしの張裏を穿て。
 登言席の武士先くと前後左右を囲繞。白昼大路を引度す。
 果ふ悪吏千里を走らと。今哉道鏡刑せらと。云侍つてとあせ。
 氣を憎しとわりの処もと貴賤老若わと先と大路のたむ群
 集しと。彼奴をつら。今朝の今もて三公九卿のうふま。政とわ
 ますや。栄耀栄花と尽せし。皇天の憎み忽ち來つ。津坊

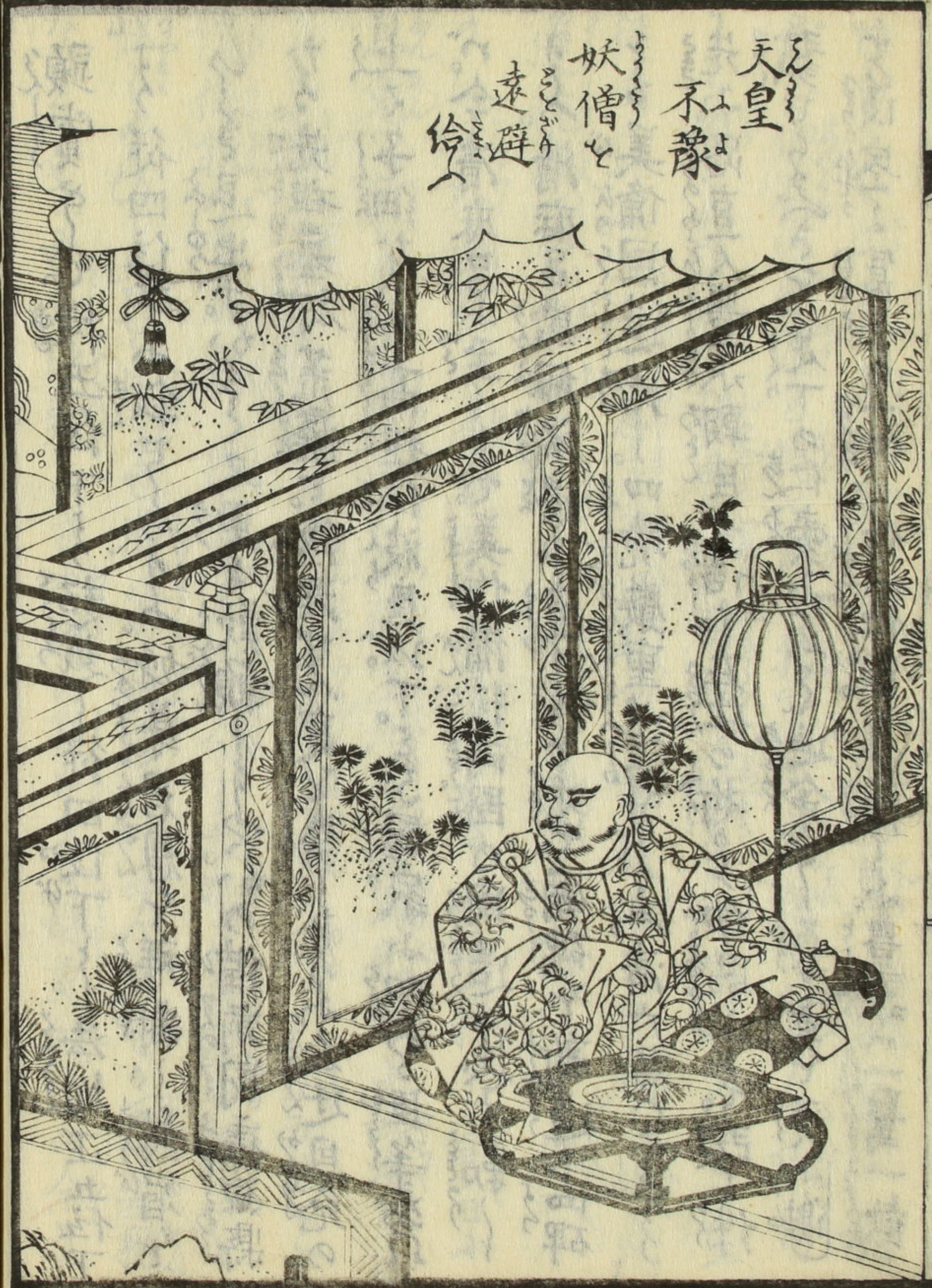
主も劣り容と面々指ぎ。罵る。流石小面目らやと頭
 と垂と目と閉と。衆人脊と屈りて。覗き。や皇天の冥罰
 早く盲人と成らう。笑とぬ者ぞなうら。後日と怪て下
 野の國おらう。茶師寺別當の名のうと。松の柱の伎師家。
 板間疎かりふ押入て。四方板と打圍て。死も牢獄と等しく。朝
 夕鹿食と与ふのうら。去て命のつとて。三年をう報苦の
 中ふ明し暮しはふ。荒布の衣裂て肌見と。食令くと四肢
 枯焦と。可見く山田り。案山子のて。終不朽と。板布と仰倒死
 とぞ為らう。道鏡が弟弓削清人同く清人が子三人。廣方
 廣田。廣津。遠國邊と論せと。又太神の神託と
 偽。道鏡不縮し。從五位下中臣阿曾六郎。道鏡が罪

せらるるを聞ゆるも。余殃身ふ及んて推し。真々正命なり。又
さ。神罰りて遁き得や。終不捕らんと。官階を削り多。神島
うぞ流るる。か。邪曲の輩明白。仕置る所。り。の。の。の。
従四位上坂上大忌寸。前田麻呂。身。惜ま。衆。技。
道鏡法師。倭奸を奏せ。忠節と賞し。正四位下。推叙し
り。其外功あり。人。と。と。昇進あり。め。打。日
恩免を蒙り。和言清名。同法均。尼波。先難。小。洛。
も。真々。旧官。従五位下。迎。將監。法均。同。正五位下。小
復任叙。か。め。則。内。小。召。卿。久。元。寃。の。謫。居。小。叙。志。と
忙。り。の。音。と。告。を。抑。汝。誠。忠。小。つ。ん。ん。つ。り。天。下。安。穩
なり。古。今。比。類。も。忠。礎。の。臣。なり。殊。更。叙。感。の。余。り

顕賞りて。従五位下より超越し。従四位下。法均。正五位下
より。従四位下。小叙せり。め。め。姉。弟。君。恩。を。拜。謝。し。愁。眉。を
ひ。き。退。出。す。か。く。又。更。々。歎。願。し。ま。か。の。備。前。國。孫。貞。縣
なる。先祖。墓碑。荒。廢。と。修。理。せ。ん。更。と。奏。し。ま。り。左。近。見。免。の
上。子。細。な。む。高。祖。佐。波。良。以。下。ま。國。家。小。功。あり。臣。等。あ。れ
ば。今。清。麻。呂。小。至。ま。まで。美。作。備。後。兩。國。の。國。造。と。と。勅。
り。清。麻。呂。感。佩。流。涕。し。直。人。と。走。て。廟。碑。を。新。造。し。四。碑
とも。美。倫。國。造。路。四。境。嚴。重。造。營。り。清。六。呂。へ。あ。り。り
先。小。路。直。人。豐。永。朝。臣。小。唱。し。左。近。の。折。り。伊。駒。山。を。改。め。珠
戮。せ。ら。る。る。と。足。下。の。仁。愛。小。り。延。命。せ。厚。重。を。更。小。謝
て。後。密。に。富。子。の。一。件。一。仕。一。位。限。なく。結。ぶ。豐。永。へ。一。驚。一。歡。



天皇
不豫
妖僧と
遠避
伶人



我は年の頃へ忘るる有るも。年老血氣衰へぬ。潜ふあまが行
衛と悲し。脂を折く歳をかどへ人あらぬ。苦勞なりしが。計りき
足下が手小音せしとて。希ふその依ふ足下の元仕へる計
の悦がんと。只管の願望。清六呂再々。尤わが改め足下の令娘
と。某が室小湯んや豊永大。教ひ則吉辰と。撰占婚式と。調へ
清六呂朝臣が本室と成り。嗟呼富子。纏綿の初る民間
落て。艱難辛苦。ちすのこあらば。父のめ種々。劬苦せし。孝心貞潔
皇天つて。孝子と捨ん。清六呂朝臣とて。故くめ。おの奇遇よ
うつ。終朝日の室と。なるを。皆あま。天の冥助。よる。忍ん
慎むと。本。かりり。

再詣宇佐八神官

和氣廣虫法均尼。備前國。飯浴のら。清六呂朝臣
の教ふあり。願て。閑境。一番と結ぶ。世塵と。松ひ一向。修
善の願。志きり。あらう。帝法。城忠と。結ぶ。叙。廟。す。く
く。先朝の。と。奉仕。す。ご。倫言。度々。及。び。一。い。い。辞
奉。ま。終。よ。教。虫。の。有。き。と。感。佩。し。三。年。の。ら。び。に。并。し
昇。り。再。び。金。殿。に。緘。虫。を。効。ら。ふ。此。頃。帝。神。や。つ。を。あ。ま。ら
僧。尼。の。憐。み。て。清。六。呂。朝。臣。の。別。室。に。退。り。し。幸。ひ。閑。暇。な。れ。ば。
塗。土。を。浴。び。と。被。さ。女。童。と。稻。後。の。こ。を。見。し。替。り。高。野。の。陵。に
拜。私。し。旧。恩。を。謝。し。奉。り。流。津。に。良。時。と。ら。し。や。と。時。と。東
大。寺。に。詣。で。二。世。安。永。の。願。を。か。け。少。頃。尊。前。に。行。き。て。慮。遮。那
佛。の。廣。大。な。り。と。稻。積。女。童。ら。げ。て。彼。手。平。足。裏。に。置。錢。帖。と

神明志きりふ幼女と以て。未前の禍災と詆く由。専ら皇
 都子風評高く。終ふ叔聞まへ達せし。帝殊々逆鱗有て。
 あひ全く神官の等。恐くも袖威と責奉り。偽の神託と触
 させ。被祝討と為し。愚民らの淨賊と掠め。己が栄利と計ふ
 必まら。臣清六呂早く向ひ。嚴重奸曲と正し。罪ある刑を加へ
 よ。重き宣旨と家ごとく。然る某今屢君恩く浴せし
 とも。知く如く三年陰。勅勤と蒙り。不智不才。つご人
 の邪正と分ん。是を以て昨日太神の祈る。帝の御為大神の
 大御自邪曲と罪し。震襟と休し奉りせし。丹誠祈誓し
 奉り。後今容と粧し言と飾る。臣清六呂の謀り。いづく
 神明と偽し得んや。鯨く先非と悔て。後來と慎んて。

斯曉すも。改んちさす。猶も私欲とく挾と。わをも欺く徒
 則神と帝と謀り逆罪。いそ神官がと許玉え大神の怒り触
 て。忽ちの身小災害あらん。方くつ小と聖上とん。原る神の
 愛憐し。度々の奇瑞と蒙り。朝臣の神を教ひ己と謙
 教戒ふ。脊と亀の頭と低く。忽ち無人城のどく。一言の答する者
 か。清六呂重て衆し示し。去の奸曲と施せ。筆の里民より掠め
 金錢。とく今夜人志と守。神前へ運び捧がへ。左あふ犯し
 先の罰と。自り改るの理なき。後今生人と知らる。我々の
 名と顯る。莫穩便小計る。心得らや面と。威ありく
 あつも猛る。静く起て別室へ入る。神官多々互々面と見合
 魂わと不還る。心地。額の汗を拭ひ。虎口と遁し。おのしを。

面々一揖も及がらむ。上下混じりて退出り。清六呂の羽朝韓嶋
 と伴ひ。御社に詣りて祈る。華表よりして弓手馬手。路の左
 右に白銀黄金包。或は緋綾三絨六絨。あつて不棄おと
 する。さて宝前ふまらるる。縁側壇上まじひたり。金銭あつて
 緋布綿など。所挾まを捧ぐ。清六呂宝前ふ九拜。神明の
 著るを感謝し奉る。韓島へ命じ。去の金銭布綿をとり
 集め。領民氏子の困家へ施し。饑饉孤獨を賑ひあらんが
 人民争ふまがらむ。渴魚の水を得らざる。忽一村人乞ひ得て
 偏り朝臣と尊ぶ。清六呂重徳を神官等と召出。先非を
 悔て得物と捧げ。改心口々に祈美なり。後村忠良を感ひ
 ことをかく戒め。若神化の事あらば。韓島よりして都へ奏し。

公の指揮を情く討て候も。私小島をあら家系を拘り
 没収する。嚴重に後來をまめ。再び太神小賽し。中を帰
 洛を促し。白を經て都へ飯着なり。直其次第を奏し。其を
 制度穏ふ。而も嚴格を叙感する。是の清六呂なるとい。倣
 得る。天気殊麗く。去の勸賞とて。正四位下式部大
 輔に任叙なるとい。玉へり。

本朝錦繡記卷四

